

「生と死を見つめて生きる」『修証義』の教えより」

『修証義 第一章 総序』

「生を明らめ死を明らむるは仏家一大事の因縁なり」

「生を明らむる」

「生きているとはどういうことか」を深く問い、自分の生を見つめること

「生きていることへの実感と感謝」

「死を明むる」

死というものを恐れたり避けたりせず、死という現実の中にある意味を正しく理解すること

“死んで終わり”ではない、死を通して“生きること”の意味が深まる

「仏家一大事の因縁なり」

仏道において最も重要なこと

「生」と「死」こそが仏道の根本

生と死を恐れることでも逃れることでもなく、あるがままに受け入れ、丁寧に見つめることが仏道

これから迎えるお盆の期間には、亡き方への思いを胸に、どうか今一度、「生とは」「死とは」と静かに向き合ってみてください。

令和七年七月十七日（木）加茂法話会

田上町 安龍寺 齋藤隆光